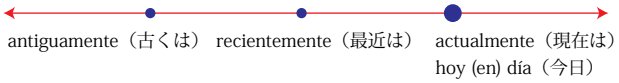
時を表す副詞の用法について

今回も前回に引き続いて副詞がテーマです。前号では場所を表す副詞（句）でしたが、今日は時を表す副詞です。今回も対象は少し広げて必ずしも副詞だけではなく、時を表す副詞や副詞句と副詞的表現とご理解ください。

まずは基本的な「時点」を表す副詞です。

これについては、本エッセーを読まれている中級者の方には説明は不要でしょう。次に行きます。



いずれもよく使う表現です。例を見ておきましょう。

Antiguamente en Osaka había muchos canales y puentes, pero **actualmente** ya no quedan muchos.

古くは大阪には多くの水路や橋があったが、現在ではほどんど残っていない。

次に「前後関係」を表す副詞です。

いわゆる「ビフォー・アフター」です。「～の前」「～の後」と言うときには《de》が必要です（antes de ～，después de ～）。さらに文章が後続する場合は《que》が必要ですが、《antes》の場合は接続法が要求されます。

Antes de que *me olvide* te digo que mañana no podré acompañarte porque me ha surgido un compromiso.

忘れないうちに言っておくけど、明日は君に同伴できない。約束が出来たので。

また、同時性を表す表現に《simúltamenamente》や《a la vez》も覚えておきましょう。

Al que asa dos conejos **a la vez**, uno se le quema.

２匹のウサギを同時に焼く者は、１つを焦がす。

前後関係の一種ですが、「早晩」は、《tarde ⇔ temprano》です。「遅かれ早かれ」と言うときは語順が決まっていて、“tarde o temprarno”になります。

Si el Gobierino no toma alguna medida, la seguridad social, **tarde o temprano**, irá a la bancarrota.

政府が対策を取らないと、社会保障は早晩破綻するだろう。

一方、《pronto》は《temprano》と同義語として、つまり「時間的に早く」の意味でも使いますが、少し異なった意味で使うことが多いでしょう。例文を見てください。

Hoy vamos a cenar **temprano**, a las seis en vez de las ocho.

今日は早く晩ご飯にしよう、８時ではなく６時に。

Vamos a cenar **pronto**, dentro de cinco minutos.

すぐに晩ご飯にしよう、５分後に。

つまり、後の例では《pronto》は「早く」ではなく「すぐに」の意味で使われています。

日本人学習者が混乱しがちなのが、この早晩と「遅く－速く」です。こちらは時の副詞というよりもむしろ様態の副詞ですが、ここで確認しておきましょう。

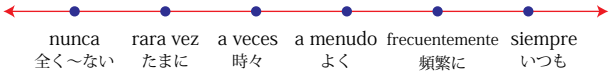
despacio ⇔ deprisa
lentamente ⇔ rápidamente
(lento)　(rápido)

言うまでもなく、lento - rápido は形容詞ですが、そのままの形で副詞として使われることもあります。

Su coche pasó **rápidamente** por delante de nosotros.

彼の車は私たちの前を速く通過した。

lento - rápido と despacio - deprisa との違いは微妙でネイティヴの人でも上手く説明できないようです。とりあえずは用例と共に覚えるしかないでしょう。例えば、「速く話す - ゆっくり話す」には後者が使われます。



もちろん、これらは代表な例であって、rara vez = raramente, frecuentemente = con frecuencia など、いろんなバリエーションがあります。

一方、「定期的な期間」を表す表現には、次のようなものがあります。

periódicamente（定期的に）：
diaiariamente（毎日），semanalmente（毎週），
mensualmente（毎月），anualmente（毎年）

Esa revista se publica cada dos semanas, pero de aquí en adelante saldrá **semanalmente**.

その雑誌は２週間に１回出版されているが、これから先は毎週出る。

ところで、スペイン語には前置詞が不要な時の表現がありますが、よく「いったいいつ要らなくて、いつ要るのですか」という質問を受けます。ちょっと整理しておきましょう。そもそもなぜ前置詞が要らないのでしょうか。それはスペイン語がラテン語から生じたことにあります。ラテン語は名詞や代名詞自体に格変化があり、《Roma ローマが》、《Romae ローマの》、《Romae ローマに》、《Romam ローマを》、《Romāローマから》、などと名詞自体が変化するので必ずしも前置詞は使われていませんでした。前置詞無しはその名残と言えそうです。

さて、理屈はさておき具体的な話に入ります。不要なのは次のような場合です。まずは、《esta mañana》、《esta tarde》、《esta noche》といった決まりきった表現です。それから、曜日、日付などですが、これは día が省略されていて、定冠詞をつけるだけで前置詞は要りません。el lunes, el 26 de mayo などです。さらに以下のように何らかの限定がされている場合には前置詞が不要なケースがあります。

○Mi primo solo trabaja los meses de verano.
×Mi primo solo trabaja los meses.

○Los nuevos estudiantes tienen que matricularse la semana que viene.
×Los nuevos estudiantes tienen que matricularse la semana.

つまり、《el año pasado》、《este año》、《el próximo año (el año que viene)》なども《el año》だけでは不可ですが、pasado 等が付くと可能です。結局は理屈ではなくよく使われる表現を覚えてしまった方が上達の近道だと思います。

それでは、!Hasta pronto!

文　仲井邦佳

仲井邦佳
なかいくによし/Kuniyoshi Nakai
立命館大学産業社会学部教授。
京都イスパニア学研究会会長。専門はスペイン語学。
著書に『はじめてのエスパニョール』（共著、三修社）、『中級スペイン語　―文法と演習―』（共著、同学社）などがある。